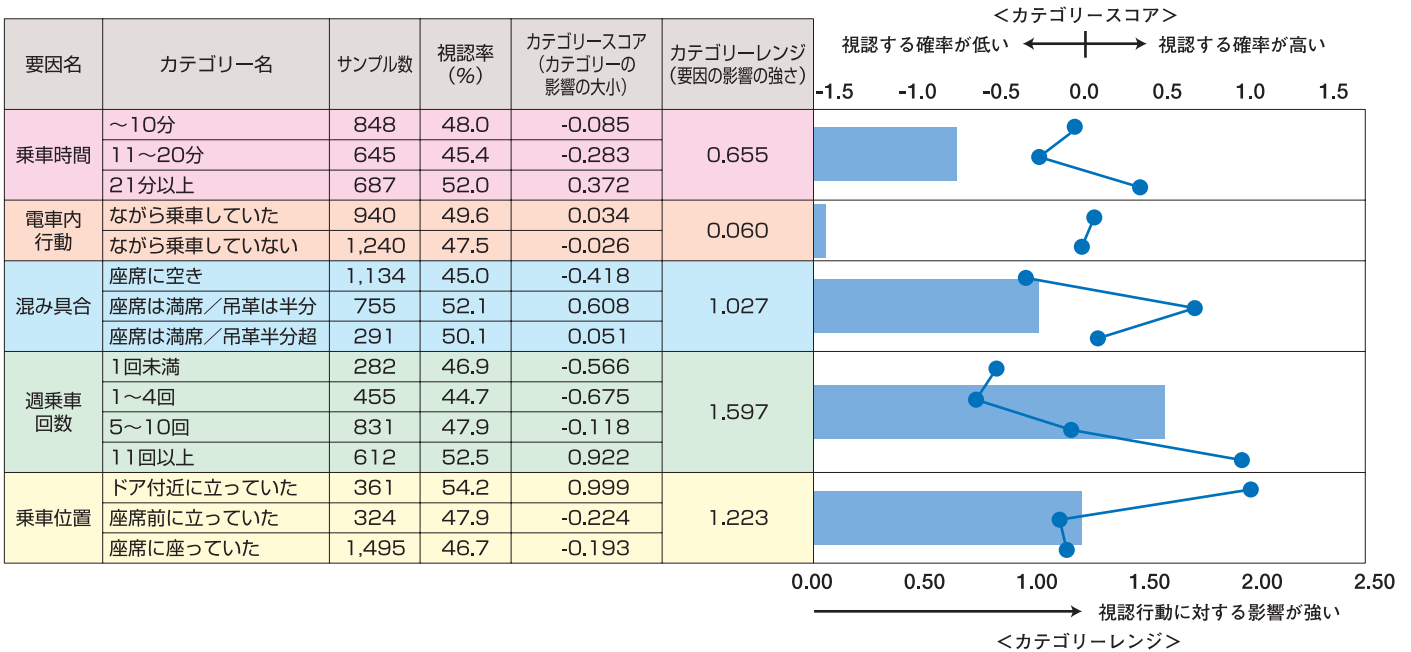
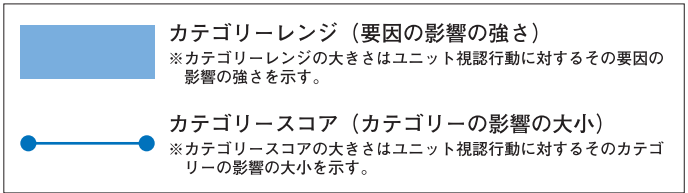


ドア上

ユニット視認行動の要因分析の結果

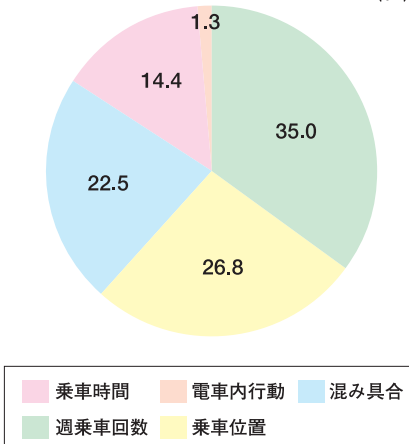
- ドア上は「週乗車回数」「乗車位置」が強い要因になっている。「週乗車回数」については週乗車回数が多いほど視認率が高まり、「乗車位置」についてはドア付近に立っている乗客の視認率が高い。
- 一方、ドア上は「電車内行動」「乗車時間」にはあまり影響を受けない。



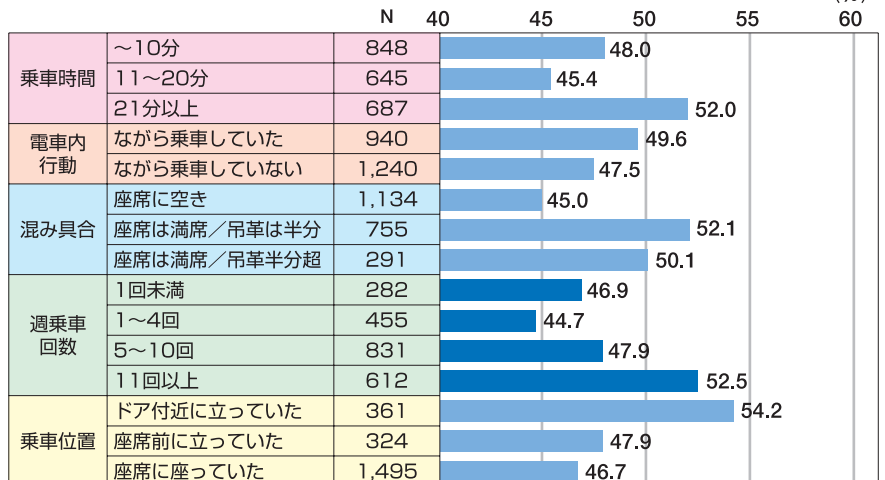
ユニット視認行動に与える各要因の影響度と視認率

- ドア上の各カテゴリーレンジの大きさを相対的にみると、「週乗車回数」が最も強い要因で、「乗車位置」「混み具合」と続く。
- また、要因別ユニット視認率をみると、
 - ・「週乗車回数」については、「1～4回」(44.7%) に比べて、「11回以上」(52.5%) は視認率が8ポイント程度高まり、週乗車回数が多いほど視認率が高くなる傾向がみられる。
 - ・「乗車位置」については、「座席に座っていた」(46.7%) 「座席前に立っていた」(47.9%) に比べて、「ドア付近に立っていた」(54.2%) は視認率が6～8ポイント程度高まる。

■ ユニット視認行動に与える各要因の影響度 (%)



■ 要因別ユニット視認率 (%)



* ユニット視認行動に与える各要因の影響度 (%) = 各要因のカテゴリーレンジ / 各要因のカテゴリーレンジの合計 × 100

* 集計に際しては、04年調査、06年調査のサンプルを合わせて集計した。